

大阪大学歯学部附属病院

【施設紹介】

大阪大学歯学部附属病院は、1953年に医学部附属病院から独立しました。西日本で最初の国立大学歯学部附属病院です。当初は大阪市内の好立地、中之島にありました。

現在、当院がある吹田キャンパスは、1968年に吹田市に誕生しました。吹田キャンパス誕生から2年後には日本万国博覧会が開催されました。略称は開催地の名から大阪万博と呼ばれています。大阪万博は吹田キャンパスの南側に隣接した場所で開催されました。万博跡地の一部、33万㎡分は吹田キャンパスとなっています。実は、歯学部のあたりも昔は万博用地でした。1983年に中之島キャンパスから現在のキャンパスに移転しております。歯学部は医学部よりも先に移転したため、当時の吹田キャンパス唯一の鉄道最寄り駅であった阪急北千里駅に近い場所を確保したのですが、医学部移転の際には大阪モノレールの駅を病院前に整備させるという離れ業を使ったそうです。吹田キャンパスは巨大で100万㎡もあり、両病院は同じキャンパス内ですが、1kmほど離れた所にあります。

保健医療系の4年制大学の先駆けである本学医学部保健学科は、1993年10月に設置されました。歯学部の南側に隣接しております。

2025年には、大阪・関西万博が再び大阪で開催される予定です。

【所有装置】

主要な装置だけご紹介します。2022年度は全部で5台、一挙に更新します。

デンタルは、イメージングプレートのみで撮影しています。放射線科に3室、他部署に



病院玄関前（歯ブラシはどこ？）



歯学部玄関付近

5室の合計8室で撮影しております。放射線科の主要撮影装置はデンツプライシロナのヘリオデントプラスミディアムサポートで、読取装置は8台全て朝日レントゲン工業販売（米国 Air Techniques 製）の Scan-X duo です。

パノラマは、朝日レントゲン工業の Hyper-X が放射線科に2台、障害者歯科治療部に1台で合計3台です。

セファロは、朝日レントゲン工業の CX-150WT です。1989年購入でまだ現役です。2018年に震度6弱の大阪府北部地震で少しダメージを受けましたが、まだ動いています。

CBCTは、朝日レントゲン工業の Alphard-3030 を臨床用と研究用に1台ずつ所有しています。さらに2022年度中に朝日レントゲン工業の AUGE SOLIO ZZ(CBCT・パノラマ複合機)が追加で導入される予定です。

MDCTは、2022年中に GE ヘルスケア・ジャパンの Revolution Frontier に更新される予定です。

MRIも、2022年度中に GE ヘルスケア・ジャパンの SIGNA Premier 3.0T に更新される予定です。

リニアックは、シーメンスヘルスケアの ONCOR IMPRESSION PLUS です。13年目であり、更新すべき時期となっております。

【組織・人員管理体制】

当院は、歯疾制御系科、咬合・咀嚼障害系科、口顎病態系科の3診療科に加えて中央診療施設、センター、共用診療施設、薬剤部、看護部、医療安全管理部の構成で業務を行っています。放射線科は口顎病態系科に属しています。

当院に放射線部は存在せず、診療放射線技師は放射線科に4名在籍しております。他のスタッフ構成は、歯科医師22名（内、大学院生6名）、医学物理士1名、受付担当1名、教室秘書1名となっております。診療放射線技師の内訳は、診療放射線技師長、常勤の診療放射線技師2名、5年任期の特任診療放射線技師（2022年現在は再雇用）1名の構成です。

診療放射線技師長は、医療安全管理部にも兼任で所属しており、病院全体の医療機器安全管理責任者も務めております。

少人数ですので、些細なことであっても技師長にまでダイレクトに伝わる体制です。また、歯科医師とも同じ科に所属しているため、歯科医師とも密に連携がとられています。診療放射線技師だけではなく、放射線科の組織全体で情報共有、連携がとられている体制となっております。

【基本方針・基本理念】

大阪大学歯学部附属病院の基本理念は、「診療を通じて口腔医学の教育と研究を推進し、口腔医療の発展に貢献する」ことでもあります。

当院は、この基本理念のもと、大学病院として3つの使命と役割に対して、行動目標・行動計画を立てています。

1. 地域の中核病院として口腔に関する専門医療の提供（医療提供機能）
2. 将来の口腔医療を担う医療従事者の育成（教育研修機能）
3. 臨床医学の発展を推進し、医療技術の水準の向上に貢献（研究開発機能）

これらを柱に、患者さん中心の安全で、信頼される口腔医療の提供、口腔医療人の育成、口腔医学・口腔医療の新たな発展に全力を注いでいます。

【新人教育と若手人材育成】

少人数ゆえ職員の新人教育をする機会は少ないですが、若手であろうとベテランであろうと、全員が目の届く範囲で仕事をしているので問題点はすぐにわかります。何か問題があれば、大部分はその日の内に指摘し、改善策を考えることができます。いわゆる少人数制個別指導型です。きめ細かい対応が可能であるとは思いますが。繁忙期、忙しい中であっても、安全に十分配慮すること、依頼目的を正しく把握すること、不適切な依頼を実施しない判断力、この辺りを中心に改善できるようにしています。歯科撮影の技術水準を向上させるために、試行錯誤、研鑽を重ねております。

本学医学部保健学科の学生実習を毎年10月から1月までの4か月間受け入れております。歯科特有の撮影を中心に、将来を担う学生たちへの実習指導を行っています。

【施設のアピールポイント】

統合されずに単独で存続している日本で唯一の国立大学歯学部附属病院です。口腔領域のあらゆる疾患、異常等に対して専門的医療を提供しております。

医科では珍しくも何ともありませんが、当院は口腔癌専門のIMRT装置を備えた施設です。なんと世界で唯一であるそうです。歯科では大変贅沢な環境であります。

2015年2月に2週間、富山大学から研修の受け入れをいたしました。この報告は、全国歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師連絡協議会のサイトに掲載されております。以下がそのリンク先です。

<http://jort.umin.jp/paper/jort55p.pdf>

会誌55号の50ページから研修の報告をしていただいております。当院における歯科撮影の基礎的な内容がわかると思います。撮影技術の見せ所であるデンタル撮影の記載はありませんが、入職されますとプロの技をわかりやすく伝授いたします。

病院は、夜間、土日祝ももちろん動いているのですが、この間の放射線検査は歯科医師がすべて行っておりますので、診療放射線技師の勤務は基本的にはありません。

他職種も交え、和気あいあいとした職場環境でありますので、仕事に慣れば大変過ごしやすいと思います。